

コーカサス「アルメニア」植物観察旅行に参加して

山 口 ま り

「アルメニア」へ植物を観察に行くと言えると、ほとんどの人が「そこはどこにあるの？」と、かえってくる。コーカサスからヨーロッパ南東部に自生しているムスカリ・アルメニアカムの学名から植物好きにはなんとなく親しみのある国名かもしれない。

アルメニアは、黒海とカスピ海の間でトルコの西、イランの北側にある人口310万人ほどの九州よりやや小さい旧ソビエト連邦の国。シルクロードの中継点として古くから栄え、キリスト教を最初に国教（301年）として定めた国としても知られている。ヨーロッパとアジアを分けるコーカサス山脈の南側にあり、植生は極めて豊かで、ヨーロッパとアジアに加えてアフリカの要素が混じり合う複雑な植生がみられる地域という。通貨はツアー時点で1ドラム=0.2円

5月20日（土）

9:00に成田空港集合。参加者は23名。青木泰介雄氏が添乗。植物との出会いに胸を膨らませて12:00にエアフロートにてモスクワに飛び立った。モスクワでは6時間ほどの乗り継ぎ時間でアルメニアの首都エレバンへ。エレバン到着は、現地時間午前3時半（時差は-5時間）。空港へはアルメニアに滞在中にきめ細やかな世話をしてくれた現地ガイドのルシーネ（Lusine Khachatryan）さんが出迎えてくれ、ホテルへ。出発までのつかの間の時間をホテルで休息。

5月21日（日）

興奮で十分な休息が取れないまま、10:00にエレバンの北東部に位置するセバン湖（1,910m）からセメノフカ峠（2,600m）へ向け、小雨の中をホテル出発。この峠を境にして気候が変わり、南側はトルコやイランから冷たい風が入り乾燥気味の大陸性気候、北側は黒海から湿った暖かい風が吹くため湿潤な気候だという。今日から26日まで植物研究所のイワン（Ivan Gabrielyan）博士が同行。

ガイドのルシーネさんにアルメニアの歴史や首都エレバンについて説明を受けながら、バスで移動。

11:00 緩やかな起伏のある草原横にバスを止め、霧雨が降る中アルメニアで最初の植物との出会い。赤い小さな花のアドニス（*Adonis aestivalis*）、ゲラニウム（*Geranium linearilobum*）、ペロニカ、プリムラ・ベリスなどなど。ここには、ムスカリ・アルメニアカムがいたるところに咲いており、感激。

11:45に出発。バケツに山盛りにされたマッシュルームが道路上で販売されており、バスを止め、一バケツ1,000円ほどとのことで購入し、後日、お弁当のおかず。ここにはムレスズメの仲間が黄色い花を咲かせていた。

セバン湖に着くころは雨も上がり、セメノフカ峠への旧道を登る。峠道への途中には残雪がところどころに見られ、ようやく春が始まったところのよう。

12:30に最高地点でバスを止め、道路わきの急斜面を登る。ここではスプリングエフェメラルと呼ばれる早春の花が咲き始めていた。イチゲの仲間、ビオラ・オドラータ、黄花のオーニソガラムのような *Gagea glacialis*、ハクサンイチゲの仲間など。

お弁当を食べ、13:30に出発。途中・途中でバスを止め、道路縁や斜面の植物の観察。開花真っ盛りのリンゴ（*Malus orientalis*）、スグリの仲間、ノバラ（*Rosa canina*）。標高が下がるほど春爛漫の花たちの姿が見られるようになった。ダフネ（*Daphne mezereum*）、野生のナシ、ネペタ、ワスレナグサ、小型のペロニカなどなど。

セバン湖畔の岩がちの崖では、トラゴボゴン、ケマンソウに近縁のフマリア、黄色のイリス（*Iris caucasica*）などが見られた。

17:00にエレバンへの帰途の途中、イワン博士の別荘があるという丘をイリス・エレガントシマ（*Iris iberica* subsp. *elegantissima*）が咲いていると案内いただいた。ここには小麦の野生種やカモミール、タイムなどもみられ、丘全体が白っぽく見えるのは植物たちの多くが銀色の毛で覆われているからで、乾燥気味の気候が知れる。

19:00にホテル近くのレストランで、ブドウの葉で

ひき肉を包んだドルマというアルメニア料理を頂く。
21:00にホテル着。ようやく、長い長い一日が終わった。

5月22日（月）

エレバンから南東部のガルニ地方へ 8:00にホテル出発。30分ほどでアララト山のフォトスポットという丘でバスを停めるが、雲に隠れて見えないので足元を観察。ネベタ、アンチューサ、ゲラニウムなどに出会う。しばらく丘陵地帯を走り、20~30cmほどの草に覆われた小高い丘（標高1,700mほど）では、球根植物のイキシオリリオン、グラジオラス、グンデリア、*Eremostachys laciniata* や印象的な花を咲かせているキク科だという *Tragopogon porrifolius* に出会う。シレネ、マメ科のムラサキウマゴヤシや *Vicia cracca* の群生、野生のバラなどなど。

途中の園芸店や花屋に寄りながらエレバンを經由し、しばらくは平坦な街中の道を今日の最終目的地イエヘグナゾールへ。電柱の上につくられたコウノトリの巣の中からは幼鳥が顔を出している。バスを止めコウノトリを見ていると近くの住人が自宅に招き入れて暮らしぶりを見せてくれた。更に、隣家のカーネーションの切り花栽培農家が、温室を見せてくれたうえにアルメニア独特のお菓子を頂いたり、アルメニアの方々の暖かさに触れることができた。



電柱につくられたコウノトリの巣

なだらかな岩の多い草原地帯が続き、ところどころでバスを止め周辺の植物探索。セントーレア、チドリソウ、ネナシカズラ、ギョリュウ、セリンセ、真っ赤

花が咲いているスイートピーなどが見られ、野生ランとも出会う。道路わきの斜面にはワスレナグサ、グラジオラスなど。

だんだん急峻な山岳地帯を進むようになり、16:00に今日の最高峰 2,035mの峠を越えた。山の斜面がピンク色に染まっている。近づいてみるとクッション状のマメ科植物で *Onobrychis cornuta* という。下って行きながらスカビオサの仲間、野生のハウレンソウ、ケッパー、純黄色の野生バラ (*Rosa hemisphaerica*) を見ることができ、18:20にイエヘグナゾールの丘の上に建つ要塞のようなホテル着。

5月23日（火）

8:00にホテルから11kmほどのバイクへ。30分ほどバスを走らせ、谷川沿いに停める。道路より上の岩がちの斜面には、このまま切り花や庭に植えたらと思うほどの大株のラティルス・ロセウスがあちこちに、黄色でコンパクトなソケイ (*Jasminum fruticans*)、マオウ、ヒヨスなどなど朝から興奮する植物との出会い。ここには食用にするアスパラガスの野生種も見られた。30分ほどで出発し、以後10~20分ごとにバスを止め、道路わきのガラ場の植物たちを観察。シレネ、ペロニカ、モロッコナズナ、白のダフネなど。

10:10 道路の前方で交通事故が発生し道路をふさいでいたので、周辺の植物を観察しながら開通になるのを待っていた。ここでは(1,460m)、ポリガラ、カンパニュラ、コンボルブルスやカモメヅルに似た *Vincetoxicum fuscatum*、真っ赤な花を咲かせていた寄生植物 *Phelipaea tournefortii* にも出会う。

11:30 通行止めが解除にならないためUターンし、セバン方面に向かう。12:00 道路わきにバスを止め昼食。道路わきの崖には、ヒペリカム、イリス、ヒヨス、カスミソウの仲間、ケシ、ビオラ、スタキスなどがみられた。

13:00に出発し、20分ほどで標高 1,865mほどの山の斜面に家が点在する集落を通過したが、道路わきでは周辺の山で採取したという山菜（ムスカリに似た *Bellevalia paradoxa* など）が売られていた。

2,053mほどの湿っぽい草原のような場所でバスを停める。プルヌス (*Prunus divaricata*)、野生のリンゴやペロニカ (*Veronica gentianoides*)、セントレーア、ムスカリ、ハクサンチドリ、プリムラ、ラムウム、黄色いシオガマギクなどが見られた。

次の目的地に向かったが、途中から雨が降り出してきたので、ホテルに向かう。



寄生植物 *Phelipaea tournefortii*

片側が深い谷になっているなだらかな草原地帯の中を進む。今日の宿泊地は、炭酸水が有名だというジェルク。ここは温泉もあり保養地になっているとのこと。

5月24日（水）

ボロタン峠からタテヴを経由して、今回の旅で一番の南となるゴリスへ。すっかり天候もよくなり、8:30 出発。15分ほど走り、湿り気の多い草原にバスを停める。マルス、ナシ、プルナスなどの灌木、濃い桃色とクリーム色のハクサンチドリ類、ポリガラ、ポテンティラ、ジュニベルス（杜松）が見られた。

標高 2,100mほどの場所にバスを止め、急峻な斜面の植物探索。ルメックス、シオガマグク、淡黄色の *Iris caucasica* などがみられ、初めて野生のチューリップ *Tulipa juliae* の赤い花に巡り合えた。斜面にへばりつくように夢中でチューリップの撮影。

南に行くにつれ、山はなだらかになり、緑も色濃くなってきた。12:30道路わきの崖に大型の黄色のイリス (*Iris imbricata*) が大群落を形成している場所を発見 (1,620m)、撮影タイム。マメ科のゲンゲ属、ナデシコ科などの植物もみられた。暖かなピザのお弁当。

ボロタン峠方面に向け、ボロタン渓谷沿いにバスを走らせる。下り道の途中、岩がちの丘状の場所では、3種類のイリスのほか、タナセタム、グラジオラスなども。

植物の化石が見られるという湖のほとりの崖 (1,360m) にイワン博士の案内で、足に自信がある

方が一緒に向かう。ここでは、*Iris acutiloba* subsp. *lineolata* がみられた。湖畔には、サルビア類などもあった。

本日の宿泊地、ゴリスに向かう。ゴリスは照葉樹林帯となり、これまでの地域とは景色がことなり、深緑色である。ホテル (1,460m) に着くころに、小雨が降り出してきた。ホテルでの夕食時に道中で購入した、野生のアスパラガスと *Bellevalia* を調理していただいたが、*Bellevalia* は苦みが強く口に合わなかった。



Iris acutiloba subsp. *lineolata* が
見られたのは幸運とのこと

5月25日（木）

8:10 タテヴへ向け出発。深い溪谷のつづら折りの道を植物観察しながら下りて行く。カンパニユラ、ピンクで香りのよい花を咲かせている *Rosa iberica*、ムラサキ科のオノスマ、ユーフォルビア、スタキス、スモークツリー、照葉のエノキ属という *Celtis caucasica*、コンボルブルスなど。

9:15 タテヴ溪谷の最深部 (標高 997m) 「悪魔の橋」と言われる洞窟に到着。谷川沿いを散策し、今までとは異なった植生に触れる。

10:30 出発。昨日来た道を引き返し、セリム峠に向かう。

14:30 標高 1,200mほどの小さな集落のそばに22日に会った黄色のバラ (*Rosa hemisphaerica*) の大株を発見。夢中で写真撮影。ここには、多肉植物のようなマメ科 (*Astragalus*) も見られた。

15:15 丸い岩が顔を出している崖には、*Cotoneaster orientalis*、モロッコナズナ (*Aethionema grandiflorum*) などがみられた。

16:30 14世紀につくられた商隊宿キャラバン・サライの遺跡のあるセリム峠 (2,300m) 付近にバス停車。やや湿り気の多い草原というような場所。ここでは茶色の毛糸玉のような花を咲かせているムラサキ科の *Solenanthes stamineus* に初めて出会う。山菜を

摘んだ帰りだという地元の方が。我々の集団に興味を持ち車を止めて話しかけてきた。山菜を摘みながらとってきたというチューリップとプリムラの花を頂いた。

高層湿原のような中をバスが走り、緑の中に黄色の流れのような景色が続いた。黄色の花はリュウキンカである。この一角にバスを止め、わずかに水が流れる開けた場所にプリムラ・オーリキュラの群落を観察。少し乾いた場所には、ムスカリも見られた。

18:00にセバン湖の畔まで下りてきた。一面、薄紫のネペタが大群落をなしている。そばには、スグリの仲間でイラン北部からアルメニアに特産するという *Ribes orientale* が満開。

20:00にエレバンに到着し、エレバン風中華料理店へ。長い一日がようやく終わった。



Rosa hemisphaerica

5月26日（金）

アルメニアの最高峰アラガツ山方面へ 8:00に出発。天気も良く山頂に残雪が残るアララト山、アラガツ山が良く見えるエレバンの郊外で2回の写真タイム。

9:40 起伏が続く草原 (2,200m) で今日最初の植物観察。スキラ、プシュキニア、ハリイヌナズナのような *Draba bruniifolia*。紫紅色と白の花弁の組み合わせが目を引き固有種だというコリダリス (*Corydalis nariniana*)、白いオキナグサ (*Pulsatilla alpina*?) などに出会う。数回バスを停車しながら進み、オーニソガラムやムスカリ2種。ユーフォルビアに似た姿のクルシアタ、途中の崖にはふわふわした葉のオオウイキョウ (*Ferula*) が一面に生え、間に赤いチューリップがちらほら見えところもあった。谷の向こうには小アララト・大アララトが良く見えた。

11:00に7世紀の要塞跡と教会に (2,120m)。今にも崩れそうな石造りの要塞跡は王様の館でもあったという。周囲を散策。ここには、セリンセ、アリウム、褐色の花を咲かせているムラサキ科の *Solenanthes stamineus* が見られた

11:50出発。12:00に開けた小川沿いの場所にバスを止めお弁当。お弁当が終わると早速周囲の植物散策。崖の途中に赤いチューリップ。13:00に出発し10分ほどでバスを停める (2,250m)。まるでムスカリの草原といったような場所。ムスカリのほかアジュガ、スキラなども生育。

13:35少し乾いた草原 (2,170m) でバスを停める。オーニソガラム (*Ornithogalum sigmoideum*)、ペロニカ、セラステウムなどが見られた。

14:45 アララト盆地に降りてきたところの耕作放棄 (1,070m) したような場所で真っ赤なケシ (*Papaver arenarium*) の群生を見る。ケシの間には、チドリソウやクリーム色の小さな花を咲かせているのスイートピーの仲間がみられた。

15:30頃エレバンに戻る。お土産を買うためにスーパーやバザールに寄り、初めてアルメニアの街を散策。治安はすこぶる良い。

19:00 アルメニア最後の夕食。旅行でお世話になったイワン博士、ガイドのルシーネさん、わがままな要求にこたえてくれたバスの運転手さんを交えてフェアウエルパーティー。アルメニア料理に舌鼓を打ちながら、アルメニア独特の笛と琴のような楽器による民族音楽の演奏を聴いた。

9月27日（土）

最終日。8:30 ホテル出発。アルメニアの歴史に触れる市内観光。紀元前783年に建設されたというエレブニ要塞へ。小高い丘の上であり、斜面には、チドリソウと淡いピンクのスイートサルタン (*Amberboa moschata*) が一面に咲き、他はカモミールで埋め尽くされている。要塞より足元の花に目が行く。小型のヒヨス (*Hyoscyamus pusillus*) やケツパーなども咲いている。続いて、エレブニ要塞での発掘品が収められているエレブニ博物館へ。

10:30市内に戻り早い昼食。アルメニアで初めてのレストランでの昼食。12:00に空港へ。14:30エレバンからモスクワを経由して、成田には、定刻の午前10時35分着。

旅行中に少し体調を崩した方もいたが、けがもなく元気に帰国。まったく馴染みのないアルメニアであったが、紀元前からの長い歴史や近年における苦難、穏やかで優しい国民、それに、植物の豊かさに少しだけ触れることができた。心行くまで植物と接する旅を設定していただいた青木さん、ありがとうございました。